

## 総務委員会先進地視察報告

### 日程・視察先・目的

令和8年5月19日 宇部・山陽小野田消防組合（山口県宇部市・山陽小野田市）

・救急医療情報システムについて

5月20日 福岡県筑後市

・HAWKSベースボールパーク筑後の誘致について

### 1 宇部・山陽小野田消防組合（山口県宇部市・山陽小野田市）「救急医療情報システムについて」

宇部・山陽小野田消防組合は平成24年4月に発足し、1局・4署・4出張所で組織されている。職員定員は、発足当初から52人増やし、現在は350人としている。

救急出動件数が以前の約1万件から令和5年以降は1万1,000件を超え、また、救急搬送困難事案が増加しているため、救急医療体制の維持強化が課題となっている。今回は、令和7年10月から運用を開始したデジタルシステムについて、使用状況等の詳細を実演や救急隊の方の話も伺いながら視察した。

	宇部市	山陽小野田市	合計（組合管内）
人口（R7.4.1）	155,492人	58,416人	213,908人
世帯数（R7.4.1）	79,727世帯	29,032世帯	108,759世帯
面積	約287km <sup>2</sup>	約133km <sup>2</sup>	約420km <sup>2</sup>
火災件数（R7）	111件	20件	131件
救急件数（R7）	8,309件	3,233件	11,542件
救助件数（R7）	54件	29件	83件

#### (1) 導入に至った経緯について

平成28年の救急出動件数は9,994件であり、コロナ禍を経て令和3年までは1万件前後で横ばいだったが、その後増加し、5年以降は継続して1万1,000件を超えている。救急搬送困難事案（30分以上現場滞在かつ4回以上受入交渉）の件数は平成28年には154件だったが、令和7年は624件と4倍以上になっている。

救急体制の逼迫を受けて、救急医療体制検討部会を設置し、①救急患者の搬送先を集約（役割分担の明確化）、②搬送先選定のためのコントロールセンターの設置、③救急医療のDX推進、④地域住民の啓蒙・啓発といった施策案が出された。令和6年5月には、宇部・山陽小野田・美祢合同救急緊急アピールを行い、救急医療の適正利用を各市民に呼びかけた。

施策案の③救急医療のDX推進の中で、救急活動のデジタル化として救急医療情報システムの導入を決定し、愛称を「Than救システム（サンキューシステム）」として、令和7年10月から運用を開始した。医療機関にとっての難点である受入可否の状況を救急隊と医療機関が閲覧可能な点は、システムの必要性を説明することで受け入れてもらい、圏域内外の27の医療機関と連携している。

#### (2) 概要について（救急医療情報システム「Than救システム」の特徴）

##### ア 情報収集のデジタル化

OCR機能によりマイナンバーカード・免許証・保険証（資格確認書）・パスポート・お薬手帳・生体モニター等の情報を正確に収集し、自動で入力を完了する。

・お薬手帳：服用中の医薬品について入力され、タップすると対象疾患等の情報が表示される。

##### イ 情報の共有

QRコードを発行し、医療機関がそれを読み取ることで、入力された情報、画像・動画を共有できる。

#### ウ 応需状況の可視化

救急隊が交渉結果を反映させることで、救急隊と医療機関が受入情報をリアルタイムで確認できる。

#### エ 電子カルテ・活動報告書への反映

QRコードを読み取ることで自動で電子カルテ・活動報告書に転記される。あらゆるタイプの電子カルテに対応しているが、活動報告書は事業者によって異なる場合がある。

### (3) 主な取組及び成果について

#### ア 運用状況

現在、救急車10台（保有台数は12台）で導入している。救急隊員は必要な情報を収集次第、医療機関にデータを共有し、電話で要請する。電話では補足説明をしながら医療機関と受入交渉をし、交渉結果をシステムに入力する。患者情報は随時追加できるため、要請・交渉を先行して行う場合もある。複数医療機関に同時に要請する機能も備えているが、1件ずつ要請する対応を継続している。

運用開始に当たっては、導入1か月前に救急隊への操作説明会を行い、その後、操作実習を重ねた。

導入の初期費用は約2,700万円、年間経費は約320万円とのことで、医療機関ではQRコードリーダーを購入する必要がある。通信回線は、通常時のほかに緊急時の別回線も用意している。

#### イ 導入の効果

##### (ア) 治療開始時間の短縮

患部やモニターの写真、事故現場を見渡した動画等の共有ができることで、より正確に患者の状況・症状の程度が把握できるため、医師・看護師・放射線技師等の招集や必要な検査の準備を整えやすくなり、医療機関到着後の速やかな治療開始が可能となる。画像情報は、医療機関にも好評であり、電子カルテへの共有も効率的である。

##### (イ) 救急隊員の負担軽減

以前はバインダーに挟んだ用紙に手書きで記入していたが、システムのOCR機能により患者の基本情報等が自動で入力されるため、記入作業がなくなった。また、受入交渉の際には、救急隊の言葉によって患者の状態等が伝えられていたが、画像等で共有できることによって、隊員による言語化の必要性が少なくなった。活動報告書へのデータ共有でも労力軽減の効果がある。

##### (ウ) 受入照会回数の減少（導入後半年間R7.10～R8.3と前年同時期R6.10～R7.3の比較）

出勤時間（出勤～帰署）や病院到着時間等の短縮効果は見られないが、受入照会回数が1回の割合は増加し、4回以上の割合は減少した。

### (5) 課題及び今後の取組について

他の地域で導入された新規機能の反映に向け、事業者と随時調整を行っている。現在、追加を検討している主な機能は、救急搬送後の予後情報を収集する予後調査機能で、医療機関との調整を図っている。

システム全体として、全国の消防機関で救急医療情報システムの導入や、導入に向けた検討が行われているが、複数の民間システムが存在するため、医療機関側の閲覧画面の違いや互換性が課題となっている。現在、広島県で、国が令和10年以降に全国展開を検討する救急医療情報連携プラットフォームを試験的に構築し、民間救急システム同士の連携運用を目指し、全国展開に向けた課題の抽出を進めるなど、市町、圏域、県を越えた広域搬送や、災害時に全国の医療機関が利用する広域災害救急医療情報システム（EMIS）との連携も視野に入れた実証実験が行われている。

(6) 所感

今回視察した救急医療情報システムは、救急隊と医療機関の情報共有の円滑化及び正確性向上に高い効果があり、救急隊員の負担軽減と医療開始時間の迅速化が果たされる優れたシステムであった。ひいては患者の救命率向上・後遺症軽減にもつながっていくのではないだろうか。今後も実践と研修を重ねてノウハウの共有等を図ることで、出動時間の短縮にまで効果が及んでくることを期待したい。

医療機関側の協力も不可欠であるが、この組合では27もの医療機関との連携がとれていることも参考になる。医療機関側の負担が少なく、有効なツールとしての認識を持たれているとも推察できる。

一方で、電子端末及び通信に依存したシステムであることから、不能に陥った場合にも救急体制が確保できる訓練も継続しなければならないと考える。

本市としても、周辺自治体及び医療機関との連携を図りながら、早期に救急医療情報システムの導入ができるよう調査研究を積極的に進めていくべきである。救急出動件数が増加傾向である中、救急医療情報システムを導入した上で、継続的に実践的な研修・訓練を実施し、より質の高い救急医療体制を構築していくことが必要であり、非常に参考になる視察となった。

## 2 福岡県筑後市「HAWKSベースボールパーク筑後の誘致について」

筑後市は、福岡県南西部の筑後平野の中で、山や海のない平坦地にあり、福岡市からは高速道路・JR快速で1時間程度の距離に位置している。人口は4万8,755人、面積は41.78km<sup>2</sup>で、縦横二本の国道、九州自動車道、新幹線、JR鹿児島本線が通るなど充実した交通網を備えている。周辺4市2町とともに筑後七国として協調して観光振興等に取り組み、その中で筑後市は水田天満宮・恋木神社から「恋のくに・筑後」としてPRしている。

10周年を迎えたHAWKSベースボールパーク筑後を訪れ、その立地状況及び存在感を肌身を感じながら、筑後市のプロ野球ファーム本拠地誘致の経験について視察した。

### (1) 経緯及び概要について

平成25年	夏	ソフトバンクホークスがファームの用地募集（提案）を実施
	9月	9月定例会市議会で市議全員がホークスのユニホームを着用
	9月24日	34市町が用地募集に応募との新聞記事
	12月25日	筑後市が選定され、記者会見を行う。
平成26年	3月27日	ファーム本拠地立地に関する基本協定を締結。正式合意
	7月2日	筑後七国とホークスによる地域連携協定の締結
平成28年	1月18日	筑後市とホークスによる地域包括連携協定の締結
	3月19日	HAWKSベースボールパーク筑後が開業

### (2) 誘致活動における主な取組について

#### ア 募集条件

- ・40,000～60,000m<sup>2</sup>で分割されていない土地
- ・ヤフオク!ドーム（現PayPayドーム）からの所要時間が1時間以内（ICから20分以内、鉄道網）
- ・20年以上継続して利用可能な土地
- ・賃貸契約
- ・提案者＝地方自治体

#### イ 一次選考

自然豊かな田園都市、日照時間が長く温暖な気候、平坦な地形、医療圏が充実といった地域特性を紹介し、強みとして①良好な交通アクセス網、②県下最大の筑後広域公園、③県内第3の都市圏の3点を盛り込んだ。

34自治体が応募した中、福岡市、北九州市、宮若市とともに、最終候補に選出された。

#### ウ 球団からの要望

当初は4万7,000m<sup>2</sup>の用地を提案したが、7万m<sup>2</sup>にしてほしいとの要望があり、周辺農地を買収できる算段をつけて応えた。そのほかの要望・質問にも速やかで前向きな回答を出した。

#### エ 市議会と協力

当初から無条件・全面的に協力姿勢で、予算措置を伴う事業等では臨時会を開催し、速やかな対応を取った。

#### オ 筑後七国との連携

筑後市が呼びかけ、筑後七国の全市町・全市町議会が連携して歓迎ムードを高めた。

#### カ 誘致にかかる予算（平成25年度）

土地購入費	9億8,600万円	所有権は筑後市
工事請負費	3億9,950万円	造成工事・測量等
補償費	4,000万円	物件（家屋等）補償
文化財発掘調査費	1,671万円	

誘致活動費	511万円	物品費 (のぼり旗、横断幕、Tシャツ、ティッシュ、うちわ、クリアファイル等) 筑後七国共同声明、総決起集会、メッセージキャンドル
合計	14億4,732万円	

〈参考〉ホークスによる投資額約60億円、固定資産税3年間返還(条例)

(3) 地域包括連携協定(筑後市-ホークス)

6項目22事業について、連携して事業に取り組む。

「若鷹のまちスポーツ健康まちづくりプロジェクト」として、令和3年にスポーツ庁主催の「スポまち！長官表彰」の優良自治体を受賞した。

1	スポーツ振興及び健康増進に関すること	3事業
2	青少年の教育及び育成に関すること	3事業
3	観光振興に関すること	1事業
4	地域活性化に関すること	6事業
5	相互の情報発信に関すること	2事業
6	その他目的を達成するために必要な事業	7事業

(事業例) 選手による学校訪問、小学校、幼稚園(保育園)への巡回スポーツ教室、ホークス選手交流のつどい、筑後ファーム野球教室、ホークスジュニアとの交流戦、「火の用心」グラウンドゴルフ大会、「子ども会」陸上・綱引き大会、ジュニアスポーツチャレンジ、地区役員との意見交換会、恋のくにデー

(4) 地域連携協定(筑後七国-ホークス)

- ・筑後七国野球教室
- ・選手の地域体験(キャンプ取材と併せて、数多くの番組で観光情報が取り上げられる)

(5) 誘致後の実績及び効果について

ア 観光入込客数

令和7年の2軍戦開催日(68日)の総客数は12万1,149人で、1日平均では1,782人であった。3軍戦・練習・キャンプでの来場者も加えると、年間15万人程度が来場しているとみられ、市全体の観光入込客数の一翼を担っている。

イ 経済効果

- ・来場者による消費活動
- ・選手・スタッフによる消費活動
- ・税収入(固定資産税、選手・スタッフの住民税)
- ・宣伝効果

ウ 社会的効果

- ・青少年の健全育成
- ・スポーツ・健康意識の向上
- ・市民の連帯感や地域活性化
- ・定住・交流人口の拡大(国勢調査H27→R2では人口微増)

(6) 課題と今後の展望

ア ソフト面の課題

- ・ホークスとの連携推進
- ・ホークス戦、イベント情報の発信
- ・野球観戦をきっかけとした地域活性化(地域産品の売り込み、地域観光への誘導)

イ ハード面の課題

- ・駐車場不足の解消（周辺住民、JR駅利用者への迷惑解消）
- ・周辺の土地利用（商業・宿泊機能の充実）
- ・4軍制始動による敷地不足

#### (7) 所感

プロ野球のファーム本拠地が立地することは、そのブランド力、経済効果のみならず、青少年育成、地域活性化等に大きく貢献することは想像に難くなく、今回の視察においても重ね重ね確認することができた。市民にとっては、市への誇りと愛着にもつながっていく、単なる球団施設にとどまらない地域資源となり得る絶大なポテンシャルを持っているものと思われる。

誘致に当たっては、オール筑後（筑後七国）で臨んでいたことが強く感じられた。筑後市では、この誘致ムードが立ち上がることに何ら障りがなかったとのことである。

今回視察した球場と最寄り駅までの間及び近隣には、10周年の現在も商業施設等は少なく、車または電車で来場して、観戦後はすぐ帰るという状況にも見受けられ、経済効果を波及させることは課題としても挙げられている。

本市が誘致を検討する場合、市内で用地候補がすぐには定まらない現状では、誘致による効果を丁寧に整理し、オール知多市となる気運を醸成することができるかが分かれ目になると思われる。